

## 「学士力」に対する意識の変化Ⅱ

—入学時と卒業時のパネル調査による検討の比較—

### Changes of consciousness about the ability of bachelor's degree Ⅱ :

An examination by the panel survey at the times of both entrance and graduation.

杉山佳菜子\*・二宮 克美\*\*・小出 龍郎\*\*\*

**要約** 2010年度入学の大学生の「学士力」に対する意識の変化を検討した。入学時と同じ学生集団に卒業時にも調査をした。調査協力者は、2010年4月の入学時2,122名、2014年3月の卒業時1,706名であった。(1)全体として、入学時は「態度・志向性」の分野を身につけたいと回答する割合が半数を超えていた。卒業時には、「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」の3分野について身についたと感じていた。これは2009年度入学／2012年度卒業の学生で得られた結果と同様の傾向であった。(2)学生の在籍した学科別に、入学時と卒業時の「学士力」に対する意識の変化を検討した。その結果、概ねすべての学科で、入学時よりも卒業時の「学士力」の得点が高くなっており、在学期間中に「学士力」が身についたと意識していることが分かった。

**キーワード** 学士力、大学生、入学時と卒業時のパネル調査、学科別の変化

#### 【問題および目的】

高校生が大学に入学する時に大学教育に期待することが、大学を卒業する時にそうした期待がどれくらい満たされたかを知ることは、大学関係者にとっては重要な事項である。また、高校生にとって、進学する学部学科を選ぶ際に、そこで学ぶ内容に関心があるのは当然であろう。たとえば、法学部に入学したいと願う生徒と心理学科や歴史学科で学びたいと思う生徒では、大学4年間で身につけたい事項は異なってくるであろう。さらに4年間の学びを終え、卒業するにあたって、どのようなことを身につけたと感じるかも、学部学科によって異なると思われる。

こうした大学への入口と出口での意識調査をする際に、参考になるのは「学士力」の項目である。学士力とは、中央教育審議会の答申(平成20年)において「各専攻分野を通じて培う学士力～学士課程共

通の学習成果に関する参考指針～」で公表されたものである。日本の大学が授与する「学士」の学位を保証するものであり、「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」の4分野13項目から構成されている。

杉山・二宮・竹市・小出(2014)は、入学時(2009年4月)の学士力に対する意識と卒業時(2013年3月)の学士力の自己評価とを比較するパネル調査を行った。その結果、入学時には学士力について身につけたいという意識は低く、「態度・志向性」に対しての意欲は高いことから、大学進学によって社会に出るための内面的な成長を期待していることが分かった。また、卒業時には入学時に身につけなかった態度・志向性は身についたと感じていた。一方で、進学理由として意識の低かった汎用的スキルについては身についたと感じている学生は半数を超えていなかった。

今回、次の年度の学生たち(2010年4月入学、

\*愛知学院大学大学院総合政策研究科研究員(太成学院大学人間学部講師) \*\*愛知学院大学総合政策学部教授

\*\*\*愛知学院大学教養部教授

2014年3月卒業)のパネル調査を実施した。そこで本論文は次の2点を報告するのが目的である。(1)今回実施した学生のデータを杉山ら(2014)の研究と同様に分析し、2つの年度の学生の結果を比較すること、(2)学部学科別に入学時と卒業時の学士力に対する意識の変化を明らかにすること、である。

## 【方法】

1. 調査協力者：A私立大学に2010年度入学した大学生2,122名(男子1,328名,女子781名,不明13名)とその4年後の2013年度卒業した1,706名(男子1,083名,女子621名,不明2名)。
2. 調査時期：入学時は2010年4月の入学直後,卒業時は2014年3月の卒業時。
3. 質問項目：中央教育審議会の答申を参考に作成した学士力自己評価尺度より,表1に示した12項目を使用した。

本研究では「知識・理解」,「汎用的技能」,「態度・志向性」の3分野についてたずね,「統合的な学習経験と創造的思考力」は除いた。入学時は「あてはまる」「どちらともいえない」「あてはまらない」の3件法,卒業時は「とてもあてはまる」

から「まったくあてはまらない」までの5件法でたずねた。入学時は「大学に進学した理由」として質問した。卒業時はそれぞれの質問項目を過去形にし,「大学4年間の学生生活を振り返って,あてはまる番号に1つ○印をつけてください」と質問した。

卒業時は5件法で質問しているため,「とてもあてはまる」と「あてはまる」と回答した者を「あてはまる」としてまとめ,「あてはまらない」と「全くあてはまらない」と回答した者を「あてはまらない」としてまとめた。

## 【結果および考察】

### 1. 2つの年度の学生データの比較

今回の調査データにおける学士力項目に対する入学時と卒業時の回答に対して $\chi^2$ 検定を行った。その結果,入学時,卒業時ともにすべての項目で有意な差がみられた(表2)。

表中で入学時に「あてはまる」と回答した者の割合が半数を超えている項目は,「問題を解決する能力を身につけたいから」,「知識や情報を利用して問題を解決する能力を身につけたいから」,「自らを律して行動できるようになりたいから」,

表1 学士力3分野の質問項目

1. 多文化・異文化に関する知識の理解を深めたいから(理解がすすんだ)	知識・理解
2. 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を深めたいから(理解がすすんだ)	
3. 日本語でのコミュニケーション・スキルを養いたいから(スキルが養われた)	汎用的技能
4. 数量的に示された自然や社会的事象を理解する力を身につけたいから(力が身についた)	
5. 自然や社会的事象について数量を用いて表現することができるようになりたいから(できるようになった)	態度・志向性
6. ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できるようになりたいから(できるようになった)	
7. ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力が身につけたいから(身についた)	
8. 論理的に考える能力を身につけたいから(論理的思考力が身についた)	
9. 問題を解決する能力を身につけたいから(問題を発見する力が身についた)	
10. 知識や情報を利用して問題を解決する力が身につけたいから(身についた)	態度・志向性
11. 自らを律して行動できるようになりたいから(できるようになった)	
12. 社会の一員としての意識を持つようになりたいから(持つようになった)	

※ ( )内は卒業時調査時の聞き方

表2 学士力項目に対する入学時と卒業時の意識の人数分布

		入学時		卒業時	
		人数 (%)	$\chi^2$	人数 (%)	$\chi^2$
多文化・異文化に関する知識の理解	あてはまらない	467 (22.73)	253.19 ***	285 (16.81)	379.47 ***
	どちらともいえない	1020 (49.64)		485 (28.61)	
	あてはまる	568 (27.64)		925 (54.57)	
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	あてはまらない	404 (19.67)	333.90 ***	236 (13.94)	458.85 ***
	どちらともいえない	1060 (51.61)		508 (30.01)	
	あてはまる	590 (28.72)		949 (56.05)	
日本語でのコミュニケーション・スキル	あてはまらない	348 (16.97)	295.51 ***	164 (9.70)	697.03 ***
	どちらともいえない	980 (47.78)		486 (28.76)	
	あてはまる	723 (35.25)		1040 (61.54)	
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	あてはまらない	461 (22.50)	429.06 ***	275 (16.41)	230.49 ***
	どちらともいえない	1125 (54.90)		637 (38.01)	
	あてはまる	463 (22.60)		764 (45.58)	
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	あてはまらない	552 (26.99)	450.69 ***	332 (19.79)	139.89 ***
	どちらともいえない	1122 (54.87)		692 (41.24)	
	あてはまる	371 (18.14)		654 (38.97)	
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	あてはまらない	467 (22.88)	363.16 ***	351 (20.77)	140.83 ***
	どちらともいえない	1086 (53.21)		593 (35.09)	
	あてはまる	488 (23.91)		746 (44.14)	
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	あてはまらない	482 (23.50)	364.05 ***	342 (20.25)	130.45 ***
	どちらともいえない	1091 (53.19)		664 (39.31)	
	あてはまる	478 (23.31)		683 (40.44)	
論理的に考える能力	あてはまらない	243 (11.84)	428.55 ***	140 (8.29)	700.19 ***
	どちらともいえない	878 (42.79)		523 (30.98)	
	あてはまる	931 (45.37)		1025 (60.72)	
問題を解決（発見）する能力	あてはまらない	177 (8.63)	689.80 ***	110 (6.52)	971.33 ***
	どちらともいえない	729 (35.54)		442 (26.22)	
	あてはまる	1145 (55.83)		1134 (67.26)	
知識や情報を利用して問題を解決する力	あてはまらない	162 (7.91)	735.94 ***	112 (6.64)	983.93 ***
	どちらともいえない	725 (35.38)		434 (25.74)	
	あてはまる	1162 (56.71)		1140 (67.62)	
自らを律して行動できる	あてはまらない	122 (5.95)	924.43 ***	121 (7.18)	868.84 ***
	どちらともいえない	682 (33.27)		469 (27.82)	
	あてはまる	1246 (60.78)		1096 (65.01)	
社会の一員としての意識を持つ	あてはまらない	130 (6.34)	875.31 ***	86 (5.11)	1306.15 ***
	どちらともいえない	698 (34.02)		355 (21.08)	
	あてはまる	1224 (59.65)		1243 (73.81)	

\*\*\*  $p < .001$

はもっとも人数が多い回答

「社会の一員としての意識を持つようになりたいから」など「態度・志向性」の4項目であった。全体的には「どちらともいえない」という回答が多かった。

一方、卒業時ではほとんどの項目で、「あては

まる」という回答が半数を超えていた。特に、「社会の一員としての意識を持つ」は70%以上のものがあてはまると回答している。続いて、「問題を発見する能力」「知識や情報を利用して問題を解決する力」も67%であった。一方、「自然や社会

的事象について数量を用いて表現する」といった「汎用的技能」の中で、数量的スキルや情報リテラシーについては「どちらともいえない」と回答する割合が高い。これらの傾向は2009年度入学生／2012年度卒業生の結果と全く同じ傾向であった。こうした傾向は男女別の変化をみても、前年の調査データとほとんど同じ結果であった。

したがって、『「入学時には学士力について身につけたいという意識は低い」ものの、「“態度・志向性” に対しての意欲は高く、大学進学によって、これから社会に出るための内面的な成長を期待している』』という杉山ほか (2014) の結果は、今回のデータでも確認され、ある程度 A 大学学生一般の傾向であることが示唆される。4年後の卒業時には大学で身につけたかった態度・志向性は身についたと感じ、進学理由として意識の低かった汎用的スキルについては身についたと感じている学生は多くはない。入学時に身につけよう

と意識していないスキルに関しては、卒業時でも身につけていないということであり、「身につけよう」と意識する、意識させる」ことが学士力の自己評価をあげることにつながる。そのために、定期的な自己評価の機会を設けることや、客観的テスト等の結果のフィードバックが必要であろう。

## 2. 学部学科別にみた入学時と卒業時の学士力に対する意識の変化

表3に学士力項目の入学時と卒業時の全体の平均値を示す。平均値を見ると、すべての項目で入学時よりも卒業時の得点が上がっており、身についたと感じて卒業していく学生が多いことが読み取れる。先述したように、「社会の一員としての意識を持つ」という項目で得点が高く、こうした力が身についたと感じていることを指摘できる。なお、もともと入学時での得点の高い「自らを律して行動できる」という項目では変化量が少なくなっている。

表3 学士力項目の入学時と卒業時の平均値

	入学時			卒業時		
	人数	平均値	(SD)	人数	平均値	(SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	1794	2.08	(0.71)	1695	2.38	(0.76)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	1793	2.11	(0.68)	1693	2.42	(0.72)
日本語でのコミュニケーション・スキル	1790	2.21	(0.69)	1690	2.52	(0.67)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	1791	2.00	(0.67)	1676	2.29	(0.73)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	1785	1.92	(0.67)	1678	2.19	(0.74)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	1782	2.04	(0.68)	1690	2.23	(0.77)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	1791	2.02	(0.68)	1689	2.20	(0.75)
論理的に考える能力	1792	2.33	(0.67)	1688	2.52	(0.64)
問題を解決（発見）する能力	1792	2.47	(0.64)	1686	2.61	(0.61)
知識や情報を利用して問題を解決する力	1790	2.48	(0.63)	1686	2.61	(0.61)
自らを律して行動できる	1792	2.54	(0.61)	1686	2.58	(0.62)
社会の一員としての意識を持つ	1794	2.53	(0.61)	1684	2.69	(0.56)

調査を実施した A 大学の文系学部は全部で 7 学部 15 学科である。表 4（宗教文化学科）から表 18（総合政策学科）までの 15 学科別に、入学時と卒業時の学士力に対する意識の変化を示した。

(1) 宗教文化学科 (表4)

宗教文化学科の学生はすべての項目で入学時よりも卒業時の得点が高くなっている。特に「知識や情報

を利用して問題を解決する力」で得点の変化が大きい。

(2) 歴史学科 (表5)

歴史学科の学生はすべての項目で入学時よりも卒業時の得点が高くなっている。「知識・理解」分野の 2 項目と「汎用的技能」分野の 5 項目での変化量が大きく、特に「多文化・異文化に関する知識の理解」で得点の変化が大きい。

表 4 宗教文化学科の学士力項目の平均値

	入学時		卒業時	
	人数	平均値 (SD)	人数	平均値 (SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	52	2.33 (0.71)	55	2.60 (0.63)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	52	2.35 (0.71)	55	2.56 (0.63)
日本語でのコミュニケーション・スキル	51	2.20 (0.75)	54	2.41 (0.71)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	51	2.08 (0.74)	55	2.13 (0.79)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	51	1.96 (0.80)	53	2.15 (0.82)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	51	2.00 (0.72)	55	2.13 (0.75)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	51	2.00 (0.69)	55	2.13 (0.75)
論理的に考える能力	51	2.29 (0.73)	54	2.50 (0.72)
問題を解決（発見）する能力	51	2.31 (0.73)	55	2.51 (0.72)
知識や情報を利用して問題を解決する力	51	2.24 (0.71)	54	2.56 (0.66)
自らを律して行動できる	51	2.45 (0.67)	55	2.51 (0.63)
社会の一員としての意識を持つ	51	2.37 (0.66)	55	2.53 (0.72)

表 5 歴史学科の学士力項目の平均値

	入学時		卒業時	
	人数	平均値 (SD)	人数	平均値 (SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	117	2.13 (0.74)	125	2.61 (0.58)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	117	2.26 (0.74)	125	2.66 (0.60)
日本語でのコミュニケーション・スキル	117	2.10 (0.65)	124	2.56 (0.64)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	117	1.92 (0.62)	124	2.30 (0.67)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	117	1.74 (0.58)	125	2.18 (0.68)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	116	1.84 (0.60)	125	2.19 (0.77)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	117	1.81 (0.60)	125	2.20 (0.74)
論理的に考える能力	117	2.27 (0.71)	124	2.57 (0.59)
問題を解決（発見）する能力	117	2.37 (0.66)	125	2.65 (0.56)
知識や情報を利用して問題を解決する力	117	2.42 (0.66)	124	2.60 (0.55)
自らを律して行動できる	117	2.39 (0.71)	125	2.56 (0.60)
社会の一員としての意識を持つ	117	2.34 (0.70)	124	2.66 (0.58)

## (3) 国際文化学科(表6)

国際文化学科の学生は「数量的に示された自然や社会的事象を理解する力」の得点の変化が最も大きかった。「自らを律して行動できる」の得点は入学時の方が高かった。

## (4) 日本文化学科(表7)

日本文化学科の学生はすべての項目で入学時よりも卒業時の得点が高くなっている。特に「知識・理解」分野の2項目の得点の変化が大きく、中でも「多文化・異文化に関する知識の理解」の項目の変化が大きかった。

表6 国際文化学科の学士力項目の平均値

	入学時			卒業時		
	人数	平均値	(SD)	人数	平均値	(SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	76	2.70	(0.57)	81	2.91	(0.32)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	76	2.43	(0.66)	81	2.86	(0.41)
日本語でのコミュニケーション・スキル	76	2.25	(0.66)	81	2.59	(0.61)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	76	1.99	(0.66)	81	2.53	(0.65)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	76	1.82	(0.65)	80	2.31	(0.80)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	76	1.83	(0.72)	81	2.22	(0.79)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的活用する力	76	1.83	(0.74)	81	2.19	(0.78)
論理的に考える能力	76	2.34	(0.64)	81	2.49	(0.65)
問題を解決(発見)する能力	76	2.47	(0.66)	81	2.58	(0.63)
知識や情報を利用して問題を解決する力	75	2.48	(0.62)	81	2.58	(0.59)
自らを律して行動できる	76	2.61	(0.57)	80	2.51	(0.67)
社会の一員としての意識を持つ	76	2.57	(0.60)	81	2.68	(0.50)

表7 日本文化学科の学士力項目の平均値

	入学時			卒業時		
	人数	平均値	(SD)	人数	平均値	(SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	97	2.18	(0.71)	102	2.74	(0.53)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	96	2.31	(0.65)	102	2.72	(0.53)
日本語でのコミュニケーション・スキル	96	2.54	(0.66)	102	2.75	(0.50)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	96	1.88	(0.67)	100	2.27	(0.79)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	95	1.81	(0.69)	100	2.10	(0.76)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	96	1.98	(0.68)	102	2.32	(0.75)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	96	1.96	(0.69)	102	2.29	(0.74)
論理的に考える能力	97	2.39	(0.69)	101	2.60	(0.57)
問題を解決(発見)する能力	97	2.54	(0.63)	102	2.74	(0.49)
知識や情報を利用して問題を解決する力	96	2.51	(0.66)	102	2.78	(0.46)
自らを律して行動できる	96	2.49	(0.63)	102	2.55	(0.61)
社会の一員としての意識を持つ	96	2.41	(0.66)	102	2.69	(0.54)

## (5) グローバル英語学科 (表8)

グローバル英語学科の学生はすべての項目で入学時よりも卒業時の得点が高くなっている。特に「自然や社会的事象について数量を用いて表現する」で得点の変化が大きかった。

## (6) 心理学科 (表9)

心理学科の学生の得点の変化が最も大きかったのは「数量的に示された自然や社会的事象を理解する力」である。また「ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力」、「問題を解決（発見）する力」の2項目ではほとんど変化が見られない。

表8 グローバル英語学科の学士力項目の平均値

	入学時		卒業時	
	人数	平均値 (SD)	人数	平均値 (SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	69	2.75 (0.47)	81	2.89 (0.32)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	69	2.29 (0.62)	81	2.64 (0.58)
日本語でのコミュニケーション・スキル	69	2.39 (0.65)	80	2.69 (0.59)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	69	2.07 (0.67)	80	2.41 (0.63)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	69	1.90 (0.71)	79	2.33 (0.71)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	69	2.06 (0.70)	80	2.41 (0.71)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	69	1.93 (0.67)	80	2.33 (0.69)
論理的に考える能力	68	2.31 (0.65)	80	2.55 (0.61)
問題を解決（発見）する能力	69	2.51 (0.56)	80	2.58 (0.57)
知識や情報を利用して問題を解決する力	69	2.55 (0.53)	79	2.58 (0.59)
自らを律して行動できる	69	2.58 (0.55)	80	2.66 (0.53)
社会の一員としての意識を持つ	69	2.61 (0.52)	80	2.76 (0.48)

表9 心理学科の学士力項目の平均値

	入学時		卒業時	
	人数	平均値 (SD)	人数	平均値 (SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	149	1.94 (0.62)	139	2.00 (0.86)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	150	2.07 (0.64)	139	2.17 (0.84)
日本語でのコミュニケーション・スキル	149	2.25 (0.68)	139	2.32 (0.81)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	150	1.89 (0.63)	138	2.10 (0.82)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	149	1.79 (0.57)	138	1.94 (0.83)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	149	1.85 (0.65)	139	1.86 (0.84)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	149	1.89 (0.66)	138	1.88 (0.85)
論理的に考える能力	149	2.38 (0.71)	138	2.40 (0.76)
問題を解決（発見）する能力	149	2.52 (0.66)	139	2.51 (0.74)
知識や情報を利用して問題を解決する力	150	2.53 (0.62)	139	2.55 (0.70)
自らを律して行動できる	149	2.58 (0.61)	139	2.65 (0.65)
社会の一員としての意識を持つ	150	2.58 (0.55)	139	2.73 (0.53)

## (7) 健康科学科 (表10)

健康科学科の学生はすべての項目で入学時よりも卒業時の得点が高くなっている。特に「日本語でのコミュニケーション・スキル」の項目で得点の変化が大きかった。

## (8) 健康栄養学科 (表11)

健康栄養学科の学生はすべての項目で入学時よりも卒業時の得点が高くなっている。特に「多文化・異文化に関する知識の理解」の項目で得点の変化が大きかった。

表10 健康科学科の学士力項目の平均値

	入学時			卒業時		
	人数	平均値	(SD)	人数	平均値	(SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	153	1.84	(0.67)	144	2.22	(0.79)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	153	1.83	(0.65)	143	2.29	(0.76)
日本語でのコミュニケーション・スキル	153	2.07	(0.76)	144	2.56	(0.62)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	153	1.90	(0.69)	142	2.23	(0.74)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	153	1.81	(0.68)	143	2.17	(0.72)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	150	1.86	(0.71)	144	2.08	(0.85)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	153	1.84	(0.71)	144	2.06	(0.80)
論理的に考える能力	152	2.20	(0.70)	144	2.44	(0.70)
問題を解決(発見)する能力	153	2.40	(0.70)	143	2.55	(0.66)
知識や情報を利用して問題を解決する力	153	2.37	(0.70)	143	2.59	(0.64)
自らを律して行動できる	153	2.59	(0.58)	143	2.74	(0.53)
社会の一員としての意識を持つ	153	2.64	(0.56)	144	2.78	(0.49)

表11 健康栄養学科の学士力項目の平均値

	入学時			卒業時		
	人数	平均値	(SD)	人数	平均値	(SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	82	1.77	(0.74)	88	2.20	(0.75)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	82	1.85	(0.74)	88	2.18	(0.70)
日本語でのコミュニケーション・スキル	82	1.90	(0.75)	88	2.24	(0.66)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	82	1.77	(0.69)	87	2.17	(0.73)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	82	1.73	(0.70)	88	2.14	(0.70)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	82	1.70	(0.71)	88	2.07	(0.77)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	82	1.71	(0.71)	88	2.07	(0.75)
論理的に考える能力	82	2.02	(0.68)	88	2.26	(0.70)
問題を解決(発見)する能力	82	2.23	(0.71)	87	2.47	(0.64)
知識や情報を利用して問題を解決する力	82	2.29	(0.71)	88	2.48	(0.71)
自らを律して行動できる	82	2.45	(0.67)	87	2.46	(0.68)
社会の一員としての意識を持つ	82	2.50	(0.65)	88	2.66	(0.58)



(9) 法学科 (表12)

法学科の学生はすべての項目で入学時よりも卒業時の得点が高くなっている。特に「多文化・異文化に関する知識の理解」の項目で得点の変化が大きかった。

(10) 現代社会法学科 (表13)

現代社会法学科の学生は「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」で得点の変化が最も大きかったが、全体に得点の変化が少ない。「知識や情報を利用して問題を解決する力」では入学時の得点の方が高かった。

表12 法学科の学士力項目の平均値

	入学時			卒業時		
	人数	平均値	(SD)	人数	平均値	(SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	156	1.96	(0.64)	145	2.32	(0.81)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	156	2.05	(0.63)	145	2.39	(0.73)
日本語でのコミュニケーション・スキル	155	2.15	(0.63)	145	2.49	(0.68)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	156	1.99	(0.61)	144	2.30	(0.71)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	153	1.93	(0.62)	144	2.15	(0.73)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	155	1.97	(0.60)	145	2.15	(0.73)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	155	1.98	(0.58)	145	2.21	(0.71)
論理的に考える能力	156	2.37	(0.62)	145	2.68	(0.55)
問題を解決（発見）する能力	155	2.46	(0.63)	145	2.74	(0.48)
知識や情報を利用して問題を解決する力	156	2.47	(0.64)	144	2.70	(0.50)
自らを律して行動できる	155	2.52	(0.58)	145	2.59	(0.57)
社会の一員としての意識を持つ	156	2.49	(0.61)	145	2.72	(0.51)

表13 現代社会法学科の学士力項目の平均値

	入学時			卒業時		
	人数	平均値	(SD)	人数	平均値	(SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	103	2.02	(0.71)	98	2.17	(0.77)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	103	2.04	(0.73)	98	2.34	(0.79)
日本語でのコミュニケーション・スキル	103	2.08	(0.68)	98	2.36	(0.75)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	103	2.01	(0.71)	96	2.14	(0.78)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	102	1.93	(0.69)	94	2.09	(0.71)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	103	1.88	(0.66)	98	2.03	(0.75)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	103	1.90	(0.68)	97	2.02	(0.72)
論理的に考える能力	103	2.39	(0.67)	98	2.59	(0.66)
問題を解決（発見）する能力	103	2.54	(0.59)	98	2.57	(0.64)
知識や情報を利用して問題を解決する力	101	2.56	(0.59)	98	2.53	(0.68)
自らを律して行動できる	102	2.49	(0.66)	98	2.52	(0.68)
社会の一員としての意識を持つ	103	2.50	(0.59)	97	2.63	(0.67)

(11) 商学科 (表14)

商学科で最も得点の変化が大きかったのは「日本語でのコミュニケーション・スキル」の項目であった。「自らを律して行動できる」では入学時の得点の方が高かった。

(12) ビジネス情報学科 (表15)

ビジネス情報学科の学生は「日本語でのコミュニケーション・スキル」の得点の変化が最も大きかった。「ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる」、「ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力」では入学時の得点の方が高かった。

表14 商学科の学士力項目の平均値

	入学時			卒業時		
	人数	平均値	(SD)	人数	平均値	(SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	201	1.97	(0.68)	141	2.27	(0.76)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	201	2.01	(0.70)	140	2.31	(0.73)
日本語でのコミュニケーション・スキル	199	2.17	(0.68)	141	2.52	(0.65)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	200	2.04	(0.67)	140	2.37	(0.70)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	200	1.99	(0.67)	141	2.24	(0.75)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	198	2.20	(0.65)	141	2.32	(0.74)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	199	2.16	(0.65)	140	2.28	(0.71)
論理的に考える能力	200	2.26	(0.69)	141	2.52	(0.63)
問題を解決 (発見) する能力	200	2.40	(0.69)	140	2.61	(0.56)
知識や情報を利用して問題を解決する力	201	2.42	(0.67)	141	2.65	(0.61)
自らを律して行動できる	200	2.53	(0.59)	140	2.49	(0.68)
社会の一員としての意識を持つ	200	2.54	(0.63)	137	2.67	(0.57)

表15 ビジネス情報学科の学士力項目の平均値

	入学時			卒業時		
	人数	平均値	(SD)	人数	平均値	(SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	105	2.05	(0.68)	94	2.36	(0.70)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	105	2.10	(0.63)	94	2.37	(0.70)
日本語でのコミュニケーション・スキル	105	2.18	(0.66)	92	2.48	(0.65)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	105	2.12	(0.66)	92	2.32	(0.74)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	105	2.06	(0.68)	94	2.27	(0.71)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	105	2.53	(0.59)	93	2.45	(0.73)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	106	2.49	(0.59)	94	2.45	(0.70)
論理的に考える能力	105	2.45	(0.59)	94	2.63	(0.55)
問題を解決 (発見) する能力	106	2.51	(0.59)	94	2.55	(0.65)
知識や情報を利用して問題を解決する力	105	2.56	(0.59)	94	2.65	(0.54)
自らを律して行動できる	106	2.49	(0.64)	94	2.62	(0.55)
社会の一員としての意識を持つ	106	2.50	(0.65)	94	2.64	(0.57)

## (13) 経営学科 (表16)

経営学科の学生は「日本語でのコミュニケーション・スキル」の得点の変化が最も大きい、全体に得点の変化が少ない。「自らを律して行動する」で入学時の得点の方が高かった。

## (14) 現代企業学科 (表17)

現代企業学科の学生の得点の変化が最も大きいのは「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」であった。「知識や情報を利用して問題を解決する力」、「自らを律して行動できる」、「社会の一員としての意識を持つ」の3項目では入学時の得点の方が高かった。

表16 経営学科の学士力項目の平均値

	入学時		卒業時	
	人数	平均値 (SD)	人数	平均値 (SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	187	2.05 (0.67)	156	2.08 (0.80)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	186	2.09 (0.66)	156	2.23 (0.74)
日本語でのコミュニケーション・スキル	186	2.28 (0.69)	156	2.57 (0.65)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	187	2.07 (0.68)	154	2.29 (0.71)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	185	1.98 (0.68)	153	2.18 (0.74)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	185	2.15 (0.64)	154	2.36 (0.70)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	187	2.16 (0.65)	154	2.32 (0.70)
論理的に考える能力	187	2.36 (0.66)	155	2.48 (0.63)
問題を解決（発見）する能力	186	2.48 (0.63)	152	2.55 (0.63)
知識や情報を利用して問題を解決する力	186	2.52 (0.60)	154	2.56 (0.59)
自らを律して行動できる	187	2.58 (0.60)	154	2.48 (0.69)
社会の一員としての意識を持つ	187	2.53 (0.62)	154	2.61 (0.60)

表17 現代企業学科の学士力項目の平均値

	入学時		卒業時	
	人数	平均値 (SD)	人数	平均値 (SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	117	2.12 (0.68)	72	2.42 (0.71)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	116	2.16 (0.66)	72	2.49 (0.67)
日本語でのコミュニケーション・スキル	118	2.36 (0.65)	72	2.57 (0.65)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	117	2.18 (0.66)	71	2.45 (0.67)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	117	2.13 (0.61)	72	2.31 (0.66)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	118	2.25 (0.67)	71	2.41 (0.69)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	117	2.25 (0.66)	72	2.26 (0.73)
論理的に考える能力	119	2.45 (0.62)	72	2.63 (0.57)
問題を解決（発見）する能力	117	2.61 (0.54)	71	2.73 (0.53)
知識や情報を利用して問題を解決する力	118	2.60 (0.57)	72	2.58 (0.67)
自らを律して行動できる	118	2.66 (0.51)	72	2.63 (0.62)
社会の一員としての意識を持つ	117	2.61 (0.57)	72	2.58 (0.64)

表18 総合政策学科の学士力項目の平均値

	入学時			卒業時		
	人数	平均値	(SD)	人数	平均値	(SD)
多文化・異文化に関する知識の理解	130	2.17	(0.69)	174	2.48	(0.73)
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	131	2.25	(0.62)	174	2.49	(0.73)
日本語でのコミュニケーション・スキル	131	2.25	(0.65)	174	2.61	(0.61)
数量的に示された自然や社会的事象を理解する力	129	2.11	(0.66)	172	2.39	(0.70)
自然や社会的事象について数量を用いて表現する	131	2.06	(0.65)	174	2.37	(0.72)
ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できる	129	2.20	(0.62)	174	2.49	(0.69)
ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力	131	2.17	(0.63)	174	2.33	(0.72)
論理的に考える能力	130	2.42	(0.62)	173	2.53	(0.66)
問題を解決（発見）する能力	131	2.59	(0.57)	174	2.69	(0.57)
知識や情報を利用して問題を解決する力	130	2.58	(0.57)	173	2.66	(0.60)
自らを律して行動できる	131	2.54	(0.60)	172	2.63	(0.59)
社会の一員としての意識を持つ	131	2.56	(0.62)	172	2.77	(0.53)

## (15) 総合政策学科 (表18)

総合政策学科の学生はすべての項目で入学時よりも卒業時の得点が高い。特に「日本語でのコミュニケーション・スキル」で得点の変化が大きく、卒業時の得点が高かった。

以上15の学科別に、入学時と卒業時の学士力に対する意識の変化をみてきた。学科によって項目得点に多少の違いはあるものの、概ねすべての学科で、入学時よりも卒業時の「学士力」の得点が高くなっており、在学期間中に「学士力」が身についたと意識していることが分かった。

## 引用文献

杉山佳菜子・二宮克美・竹市良成・小出龍郎. (2014). 「学士力」に対する意識の変化－入学時と卒業時のパネル調査による検討－ 愛知学院大学総合政策研究, 16 (2), 1-16.

<謝辞> 本調査は、愛知学院大学高等教育研究所の研究活動の一環として実施されたものです。調査実施当時、竹市良成客員教授が本調査実施に関わっていただいていた。また卒業時の調査では、各学部ゼミ担当教員の協力を得ました。調査に参加してくれた学生諸君も含め、記して感謝します。

**Abstract:** This study investigated the changes of consciousness about the ability of bachelor's degree of university students. We surveyed the same group of students at the times of both entrance and graduation. The participants were 2,122 students at April in 2010 and 1,706 students at March in 2014. There were over half percentage students who wanted to acquire the area of "attitudes and orientation" at the time of entrance. Upon graduation, they felt out that the areas of "knowledge and understanding", "general-purpose skill", and "attitudes and orientation" were accomplished. These trends were the same as another data which collected from the students who entranced at 2009 and graduated at 2013.

The analysis in terms of the students' major revealed the consciousness of the ability of bachelor's degree at the time of graduation was higher than that at the time of entrance. Students felt that they acquired the ability of bachelor's degree in their college life during four years.

**keywords:** the ability of bachelor's degree, university student, panel survey, analysis in terms of the students' major